

新年号

酪農

とちぎ



- 1 ページ 表紙
- 2 ページ 組合長挨拶
- 3 ページ 栃木県知事挨拶
- 4 ページ 青年部部长、女性会会长挨拶
- 5～6 ページ 福島原発事故損害賠償請求の経過状況
- 7 ページ 婚活支援事業、第8回全日本B&Wショウ
- 8 ページ 東西南北
- 9～10 ページ 部課だより、理事会だより



迎
春

謹んで
新春のお慶びを
申し上げます



新年の挨拶

代表理事組合長 菊池 一郎



組合員ならびにご家族の皆様方におかれましては、輝かしい新春を迎えられたことと謹んでお慶び申し上げます。

さて、国内政治は昨年来より民自公の3党合意により消費税増税法案が可決、「近いうち解散」の後に行われた衆議院議員選挙で民主党政権に対する失望感を反映してか自民党が「熱気なき圧勝」を遂げ、3年余が過ぎてまたもや潮目が変わるごとく政権交代が行われました。政権奪還を果たした自民党は「聖域なき関税撤廃を前提にする限り、TPP交渉参加に反対する」政権公約ですが、中国・韓国が絡む領土問題を前に日米同盟の強化は外交の最優先事項であ

り、TPPの本質が米国の利害が前面に出ているアジア戦略である以上、TPPへ日本が参加することは日米同盟の関係深化に不可欠な要素と推察される所です。今後日本も日本の食糧安全保障と地域経済の維持を強く主張し、現政権の外交姿勢が変容しないよう厳しい監視が必要と思われまます。

東日本大震災に伴う東京電力福島原発事故により、風評被害や農畜産物への損害賠償請求の各種の対応が続いております。我々はこれら問題に対峙しつつ、安全・安心な生乳の安定供給を合言葉に、憤懣(ふんまん)やるかたない精神的な余震にも耐えていかざるをえません。そのような状況下ではありますが、今後行政をはじめ乳業メーカー等と連携協力し、生産から製品販売までの厳格な管理を継続し、生乳・農畜産物の安全性を着実に浸透させて、産地ブランドの復権に邁進(まいしん)してまいりたいと意を強くする次第です。

組合の生乳生産は、平成23年度震災復興対策に関わる乳牛導入助

成事業により年度当初から前年比105%を超える伸びで推移し、下半期に入り徐々にそのペースは落ちてきておりますが、例年にならぬ増産基調で推移しております。関東全体の生産状況が計画生産数量の範囲内にありますので、他会員との調整を図りながら必要に依り生産枠の確保に努め支障なく対応を進めてまいります。

本年度は第3期中期3ヶ年構想の初年度ですが、事業方針で掲げた幾つかの課題に着目し、10年先の酪農を見据えた生産基盤強化を図ってまいります。

まず1つは、後継者対策の拡充を図るための担い手婚活支援事業の推進です。本事業を通じて100名を有する独自の酪農後継者ご家族に良縁が結べるよう組織の人的ネットワークを生かして婚活支援を推進してまいります。2つ目は、組合員の高齢化や労力不足による作業委託の要請にこたえ、多角的な事業展開も視野に置き、組合出資による子会社「株式会社酪農とちぎアグリサポート」を本年4月に設立し、組合の牧場事業とアグリサポート事業を業務移管することです。それらを節目に、県内コントラクターによる自給飼料生産等の支援強化の更なる展開を目指してまいります。3つ目は、生産基

盤の確立に資する安定的な資金調達方法(乳牛を担保とした導入資金・運転資金等の貸付)について、本年4月からの運用開始に向け融資機関と業務提携し対応を進めてまいります。

いずれにしましても、皆様方の潜在的な生産力を発揮していただける環境を整えながら、楽しく安定した酪農経営につながるよう対策を講じてまいります。

世界の食糧動向を広く大きく捉えますと、世界で流通できる食糧そのものに余裕は無いと思えます。牛乳乳製品の国内需給を安定させていく我々の使命は普遍的、献身的なものであり、土づくり、草づくり、牛づくりの弛まぬ精進と食糧供給を担いそれを支える関係各位の皆様方に敬意と感謝を申し上げます。

結びに、今後とも組合運営に對しましてご理解ご協力をお願いすると共に、ご家族皆様方のご健勝ご多幸をご祈念申し上げます。被災地の復興が真に望まれる取組みで進められ、国民が政治への不信感から脱皮し、デフレ経済からも脱却し、活力みなぎる日本が幕開けすることを切に願ひ、新年の挨拶をいたします。



知事挨拶

栃木県知事 福田 富一



酪農とちぎ農業協同組合の組合員、役職員の皆様、あけましておめでとございます。

私は、昨年の知事選挙におきまして、多くの皆様の御支援をいただき、引き続き県政を担わせていただくこととなりました。今、改めてその責任の重さを実感いたしますとともに、県内各地でお伺いした皆様の切実な声やふるさと“とちぎ”に対する熱い思いに込め、県民中心・市町村重視の県政を引き続き推進していく決意であります。

ります。

今日、我が国には、長引く景気の低迷、国と地方を通じた厳しい財政状況、持続可能な社会を構築するための社会保障と税のあり方、そして、東日本大震災からの復興やエネルギー政策に加え、環太平洋戦略的経済連携協定（TPP）への参加問題など、様々な課題が山積しており、多くの国民は将来に対して漠然とした不安感や閉塞感を抱いているところであります。こうした現状を打破し、子どもたちに明るく確かな未来を拓いていくためには、すべての基本を「人」に置き、そして、「人」に身近な存在である地方から活力を生み出し、元氣を取り戻していくことが重要であり、その先頭に本県

が立ちたいと考えております。

そのため、3年目を迎える栃木県重点戦略「新とちぎ元氣プラン」の着実な推進はもとより、震災からの復興を仕上げる段階へと進むため、農産物の安全安心のPRや、風評被害払拭のための観光誘客対策等の取組をより一層加速させるとともに、大震災の経験を教訓とし、安全安心な暮らしを支えるため、ソフト・ハード両面から防災・減災対策を講じることにより、「災害に強い“とちぎ”」の実現に取り組みます。そして、「人づくり」を引き続き政策の中心に据え、人を育み、すべての人が力を発揮することができる社会づくり積極的に取り組み、「人が輝く“とちぎ”」の実現を図って参ります。

また、農業においては、本県の農業が魅力ある成長産業として発展していけるよう、「とちぎ農業成長プラン」に基づき、本県農業

をリードするプロ農家の育成や農業を起点とした“フードバレーとちぎ”の推進などの重点戦略を着実に展開して参ります。

特に酪農については、配合飼料価格の高騰による生産費の増加に加え原発事故の影響もあり、厳しい状況が続いておりますが、生産コストの低減や安全安心対策の推進を図るほか、6次産業化等についても積極的に推進して参ります。

知事3期目の新たな年を迎えるに当たり、私は、“チームとちぎ”のリーダーとして、人が輝き、人が集う「日本一元氣な“とちぎ”」を目指し、全身全霊を傾けて参りたいと考えておりますので、より一層の御理解と御支援をよろしく申し上げます。

年の始めに当たり、私の所信を申し上げますとともに、皆様にとって素晴らしい年となりますことをお祈り申し上げます、新年のあいさついたします。



新年の挨拶

青年部部長 小森 崇宏



新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、益々ご活躍の事とお慶び申し上げます。部員の皆様、組合役職員のご協力とご指導を賜り、書面を拝借して厚くお礼を申し上げます。

さて、昨年6月の青年部総会において本部部长に再任され、新規役員と共に新たなスタートを切りました。今年度は新規事業として、8月に「家族交流会」を開催しました。これは結婚している青年部員が対象で、酪農をしていない奥さんや子供たちにも、我々酪農家の仲間になってもらおうとの趣旨で企画しました。11組の家族が参加し、レモン牛乳でおなじみの栃木乳業を見学し、昼食を兼ねて懇

親会を行いました。短い時間でしたが、和気あいあいとした交流会が実施できました。参加して下さった方からも「来年も開催して欲しい」との要望も頂きました。支部や地域を越えて、新たなコミュニケーションが生まれれば幸いです。

11月には県内3箇所(那須町、高根沢町、壬生町)の幼稚園や小学校において搾乳体験を行いました。青年部本部としては3年振りの事業でしたので、経験のある役員・部員は少なかったのですが、皆で協力し無事終了することができました。今回の搾乳体験は、消費拡大が目的ではなく、酪農を身近に感じてもらうことに重点をおいて実施しました。実際に牛を間近で見た時の「大きい!」「すごい!」という子供達の歓声と笑顔がとても印象に残りました。きっと子供たちは牛乳を飲む度に牛の事、酪農という仕事を思い出してくれることでしょう。

今年も我々青年部は、各種事業を通じて親睦を深め、若い力を結集して、与えられた役割を担い、明るい酪農業界を願う活動して参ります。

最後になりましたが、本誌読者の皆様の益々のご発展とご多幸をご祈念申し上げます、新年のご挨拶と致します。

新年の挨拶

女性会会長 増山 英子



新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、益々ご活躍の事とお慶び申し上げます。女性会会員の皆様、組合役職員の皆様には女性会活動に対し、格別のご指導とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、一昨年に発生した東日本大震災と原発事故による放射能汚染問題で多大な影響を受けた県内酪農業は未だ完全な収束には至っておりません。

しかしながら、私達酪農家自身の努力と酪農協等関係機関と連携を取りながら、前向きに行動する事により、この厳しい状況を乗り越えられるものと信じております。

女性会では本年度の活動統一テーマを「牛乳消費拡大、我が家から」と「徹底しよう、記帳と防疫」の2項目を掲げ、各々の支部でテーマに沿った活動を展開しております。

また、全体研修会をホテルエピナール那須にて開催し、講師に農山村地域経済研究所長の楠本雅弘氏を迎え「ドンブリ勘定から脱却するための酪農経営」と題し講演を頂きました。

複式簿記の活用と家族経営協定の締結をすることで、理想的な経営ができるとお聞きし、酪農はやり方次第で益々発展する産業だと思いを強く致しました。

本年も引き続き、防疫体制を強化しながら、より安全で安心な牛乳を生産し自信を持って消費拡大運動に取り組んで参りたいと思っております。これからも女性会活動に對しましてご支援ご協力を賜ります様よろしくお願いいたします。

最後になりましたが、本年も皆様の益々のご発展とご多幸を心よりご祈念申し上げます、新年の挨拶と致します。



福島原発事故損害賠償請求の経過及び状況について

1. 原発事故損害賠償請求の経過と支払いについて

請求について平成23年度は、その年に刈り取られた利用自粛牧草及び稲わらに対しての財物価値に対する賠償請求のみが行なわれました。平成24年度については下記のとおり請求が行われております。

2. 平成24年度で対応している損害賠償請求項目について（東電請求開始月）

1) 廃用牛等の出荷に係る損害賠償（H24.4～）

対 象：H23.7.8～H24.3.31に販売したもの（出荷遅延のための死亡牛も含む）

詳 細：事故以前の西那須野市場平均単価（139,210円）と該当牛の販売価格差（風評被害）及び、出荷遅延のために発生する営業損害加算・増崇経費の合計

2) 子牛の出荷に係る損害賠償（H24.4～）

対 象：H23.7.8～H24.3.31に販売したもの

詳 細：事故以前3ヶ年同月の西那須野市場畜種・性別ごとの平均単価を基準として現在の市場平均より下落率を求め、対象牛販売額に下落率を乗じて求めた損害額

3) 損害賠償請求済み牧草等に係る廃棄料金の損害賠償（H24.8～）

対 象：以前に損害賠償請求している平成23年産利用自粛牧草の廃棄作業を行う者（行った者）

詳 細：平成23年産損害賠償請求済み牧草の廃棄に係る作業料金。公的な作業料金表等から標準的な実費相当額を算出し、廃棄牧草等の作付面積で一括請求できるものとした。作業完了報告書の提出を持って完了とする。

4) 新基準値の施行に伴う平成23年産牧草等の給与残に係る財物価値及び廃棄料金の損害賠償（H24.8～）

対 象：平成24年4月より給与可能牧草のセシウム基準値上限が300Bqから100Bqに変更したことにより利用自粛となった牧草を保有している者

詳 細：各農業振興事務所が巡回にて確認した牧草在庫数を基に、給与基準値の見直しが行われることにより利用自粛をした平成23年産自給飼料残量の財物価値及び廃棄料金の損害合計額で請求。基準単価は昨年度の損害賠償基準及び公的な作業料金表等から標準的な実費相当額を算出した。作業完了報告書の提出を持って完了とする。

5) 平成24年産給与自粛牧草に係る損害賠償（H24.9～）

対 象：平成24年栃木県モニタリング検査結果から牧草利用自粛となった地区で自粛対象草種を作付けしている者。また、モニタリング検査結果が20Bq～100Bqの地区で行われた給与前検査で利用自粛となった牧草を保有している者。

詳 細：利用自粛となった作付圃場面積より昨年度定めた基準に従いTDN換算によって損害額を求める。永年牧草地に関しては昨年度求めた1～3番刈取り草の生産予定量の合計を基準として、単年生牧草については利用自粛となった刈取りステージのみを対象として求める。



6) 永年牧草地の回復の賠償 (H24.9～)

- 対 象：(1) 平成24年産永年生牧草モニタリング検査で利用自粛となった市町
 (2) 平成24年産永年生牧草モニタリング検査で暫定許容値以下であるが、給与前検査で暫定許容値を超過し利用自粛となった地域もしくは農業者 (県全域)
 (3) 平成23年6月以降、平成24年産永年生牧草モニタリング検査までに、栃木県の指導 (農業技術対策指針) により、既に反転耕等を実施した農業者 (県全域)

詳 細：県「牧草地除染マニュアル」に沿ったものとする。各農協、各酪農協等が永年生牧草地の牧草地回復作業の作業実施主体となり、作業を一括管理し、東京電力㈱に賠償請求を行う。

※上記内容においての損害賠償請求がお済でない方・問い合わせは、最寄支所までお問い合わせください。

口蹄疫に関する防疫対策の強化について

我が国での口蹄疫の発生は平成22年以降確認されておりませんが、台湾や中国をはじめとした我が国の近隣諸国においては、引き続き発生が認められていることから、我が国への「口蹄疫ウイルス」の侵入リスクは依然高い状況にあると考えられております。

これから年末・年始及び春節を迎えるに当たり、アジア地域における人・物の移動が盛んになり、それに伴い「口蹄疫ウイルス」の侵入の可能性が高まることが懸念されます。

つきましては、口蹄疫が発生している国への渡航を可能な限り自粛いただくとともに、各農場においては飼養衛生管理基準の遵守をお願いし、口蹄疫等家畜の伝染性疾病の発生予防に努めましょう。

農機具の盗難にご注意を！

全国的に建設重機等の盗難事故のニュースを耳にしますが、当組合管内においても昨年末に農機具の盗難事故が発生しました。

農機具の施錠や車庫への格納の徹底等、盗難事故の防止に向けて地域ぐるみの対応強化と注意喚起をお願いいたします。

12月度 ホクレン初妊牛市場成績 (単位：千円 (税込))

市場名	開催日	出場頭数	成立頭数	取引率	平均価格	(そのうちET牛)		
						出場頭数	成立頭数	平均価格
南北海道	12月7日	133	115	86.5%	472	4	3	587
釧路	12月12日	351	263	74.9%	492	0	0	0
根室	12月13日	598	524	87.6%	520	31	25	604
豊富	12月14日	521	409	78.5%	494	9	7	597
十勝	12月18・19日	965	868	89.9%	545	107	93	634
北見	12月20日	477	394	82.6%	493	1	0	0
合計		3,045	2,573	84.5%	515	152	128	625
前月		3,855	2,733	70.9%	487	171	128	612
前年同月		3,687	2,778	75.3%	483	156	138	623

1月の初妊牛の動向は、3月後半から4月分娩腹が中心となります。導入の動きも活発になると思われ、強含みで推移することが予想されます。また、道内需要も活発であるため、資源的にも逼迫してくると予想されています。

H24.12月度 県内家畜市場成績 (単位：円 (税込))

市場名	種別	出場頭数	成立頭数	平均体重	最高	最低	平均	前回比
西那須野 (12/15)	ホルス雄	150	144	66	44,100	110	25,584	3,859
	F1雄	76	76	58	183,750	67,200	136,238	2,042
	F1雌	68	68	53	119,700	22,050	75,044	10,264
館林 (12/17)	ホルス雄	6	6	77	23,100	6,300	18,550	▲9,275
	F1雄	21	21	94	206,850	120,750	162,200	▲6,588
	F1雌	25	25	87	147,000	15,750	102,690	▲7,298

12月に入り西那須野市場については全体的に小戻す状態になりましたが、館林市場は弱気配相場となっております。



酪農とちぎ担い手婚活支援事業 始まる！

酪農経営の安定や地域振興を図る上で、晩婚や非婚が社会現象となる中、担い手の配偶者確保は急務の課題です。そこで、組合の人的ネットワークを生かし、独自の担い手に良縁が結べるよう下記内容にて婚活支援に取り組んでまいります。

〈取組みの概要〉

組合に婚活に関わる相談窓口を設け、支援体制を作り婚活支援を行う。

〈事業の対象者〉

独身の担い手、特に30代以降の独身者

〈組合の支援体制〉

相談室長に副組合長、支所相談員に支所長、事務局に総務課長及び青年部本部事務局があたる。理事・監事は地域相談員として各種対応にあたる。なお、適任者がいれば特別相談員として支援協力ももらう。

本取組みの第一弾として12月6日宇都宮支所研修室にて、平成23年度から婚活支援に取り組んでいる鹿児島酪農協後継者支援組織強化対策室長の新川豊巳氏を講師



新川豊巳氏

に招き、役員、地域酪農組合・青年部・女性会役員、関係職員の総勢46名が参集のもと婚活支援研修会を開催しました。

鹿児島酪農協では、担い手確保のための対策室を立ち上げ、酪農後継者を対象とした婚活研修会、新聞告知等により酪農家に嫁ぎたい方を募集し婚活イベントを実施しております。関係団体、青年部、女性部からの情報提供などの支援協力の様子や、下見から始まるイベントの周到な準備と対応経過について詳細を伺うことができました。酪農とちぎでは、FM栃木主催の婚活イベントに協賛する形で4月21日(日)の開催に向けて交流パーティーを企画相談しております。今回の研修を参考にしながら婚活支援を盛り上げていきたいと考えています。今後とも本事業へのご理解ご協力をお願いいたします。

第8回全日本ブラックアンドホワイトショウ

11月23日に静岡県御殿場市馬術センターで、「第8回全日本ブラックアンドホワイトショウ」が開かれました。

5年に1度開かれるこの大会は、全国ホルスタイン改良協議会が主催し、協会参加の酪農家の代表牛を一堂に集め、その体型、資質の改良水準を比較検討して、今後の改良に生かすことを目的に開かれ、204頭の出品がありました。

栃木県からは、選考会によって選ばれた精鋭10頭が参戦しました。入賞結果は以下のとおりです。

8th ALL Japan Black and White Show TOCHIGI RESULT

- ◆期 日：平成24年11月23日(金)
- ◆場 所：静岡県御殿場市馬術・スポーツセンター
- ◆主 催：全国ホルスタイン改良協議会
- ◆出品頭数：204頭
- ◆審査員：山口 寿典 氏 (株)十勝家畜人工授精所 取締役営業指導部長
- ◆アシスタント：瀬能 剛 氏 北海道岩見沢市 (酪農家)

出品区分	出品者氏名	組合名	出品頭数	順位
第1部 未経産10月以上12月未満	山本 訓	矢板市	27頭	16位
第2部 未経産12月以上14月未満	鷹 箸 稔	日光市	22頭	14位
第3部 未経産14月以上16月未満	真岡北陵高校	真岡市	26頭	14位
第4部 未経産16月以上18月未満	高塩 浩典	那須塩原市	9頭	3位
第8部 後代検定3歳級	小針 勤	那須塩原市	5頭	4位
第9部 30ヶ月未満	植木 靖	日光市	18頭	3位
第9部 30ヶ月未満	那須拓陽高校	那須塩原市	18頭	6位
第10部 30ヶ月以上36ヶ月未満	中山 真介	那須烏山市	14頭	2位
第10部 30ヶ月以上36ヶ月未満	那須拓陽高校	那須塩原市	14頭	4位
第13部 経産4歳以上5歳未満	和泉 正行	那須塩原市	16頭	9位



第10部リザーブチャンピオン 中山真介さん所有「パインツリー フェースト ロイ クリスマス ダンディ」号



東西南北

那須高原支所



氏名 由香里 本名

講演会開催
十歳若く
見える姿勢&
ウォーキング

11月21日、支所において活動推進協議会（臼井勉会長）による研修会を組合員及び関係者含め約60名の参加者を得て、福島県会津出身でミスユニバースジャパン・エクスサイズ講師の本名由香里氏を招き開催いたしました。彼女は2008年ミスユニバースジャパンファイナリスト（第2位）の栄光に輝き、モデルの仕事の合間を縫い各地で公演活動や婚活支援をしております。

一昨年の東日本大震災から始まり福島原発事故、それに由来する牧草の放射能被害等や米国の異常気象による飼料の高騰と酪農を取り巻く情勢は厳しいものではあります。少しでも前向きに生き生きと生活する、そして仕事柄抱える腰痛等をケアするウォーキングの仕方等の講習を受けました。

講演では彼女自身「勘違いからスタートしたミスユニバース」自分に自信を持ち、目標を立て計画

し実践をしていったらいつの間にか「ファイナリスト」まで登りつめたこととです。それらは我々の日々の生活にも言えることであり、「挑戦する勇氣と実践する根拠が大切である」ということに共感し元氣付けられました。

後半は自分を素敵に見せる姿勢・ウォーキング&ポージング・笑顔の実践指導を受けました。最後は参加者全員によるショウ！

初め緊張気味であった皆さんの顔が終了時には自信に満ち溢れた素晴らしい笑顔に変わっていました。

宇都宮支所



氏名 達雄 三輪

全体研修会開催

12月12日、宇都宮支所研修室において、支所活動推進協議会（小林幸雄会長）による「酪農セミナー」が開催されました。

今回は全酪連購買部酪農生産指導室特別嘱託員・獣医師の三輪達雄氏をお招きし、国際情勢や畜産経営の改善策について、また同氏が海外技術者派遣事業で訪問したブータン王国での経験談等について、講演頂きました。

まず、酪農を取り巻く国際的な問題について説明があり、具体的にはTPPに参加した場合の影響、

世界の人口増加に伴う食糧不足・穀物価格上昇、天候不順による飼料作物生産量の減少、UAEや中国の飼料作物輸入拡大、各国の乳価と為替の影響などについて、解説頂きました。

続いて、ブータン王国の酪農について紹介があり、現代の日本酪農との違いに参加者は興味深く聞いていました。また、国王来日の際に広くメディアでも取り上げられました。ブータンはGDPではなくGNH（国民総幸福量）を指標として用いており、経済的な豊かさよりも精神的な豊かさが重視されていることでも有名です。

以上、国際情勢やブータン酪農の紹介を踏まえ、個々の酪農経営の改善策についていくつか提案を頂きました。

最後にまとめとして、これからの酪農経営は、わずかな変化を敏感に察知し、柔軟に対応し続けていくことが、生き残るために重要であるとのことでした。

県南支所

全体交流会開催

12月4日、支所活動推進協議会（杉野昇会長）主催の全体交流会が県南支所において開催され、組合員や家族・従業員及び各関係業者の方々等、130名が親睦を深めました。当日は、雨天に伴い室内での開催となりましたが、参加者の準備協力も得て、無事行う事が出来ました。最初に、菊池組合

長から酪農情勢について報告を頂き、その後恒例のバーベキューとビンゴゲームで、大いに盛り上がりました。会場内は笑い活気に満ちあふれ、参加者は明日への活力に繋がる、有意義な一日となりました。

女性会2支部が研修会を開催

11月1日、女性会河内南部・下都賀支部（海老原治美支部長）による秋季研修会として、17名参加のもと東京方面へ研修に行きました。当日は、サンシャイン水族館や東京駅の見学のほか、展望レストランでの昼食など、本当に楽しいひと時を過ごす事が出来ました。

次に、12月19日には女性会芳賀支部（増山英子支部長）が東京方面へ研修に行きました。当日は29名が参加し、「ルミネTheよしもと」での観劇や、東京スカイツリー見学を楽しまれました。

また、2支部ともバスでの研修旅行となりましたが、車中では職員がチェックシート記録・記録の説明を行い、更なる記帳率の向上をお願いしました。今後とも安全・安心確保のため、継続しての記帳をお願い致します。



部課だより

生乳販売課

11月度の組合生乳生産量は、昨年同月乳量と比較し104.3%（1万6859t）、累計の受入乳量は105.4%（14万63t）となり、13ヶ月連続し前年を上回る状況です。出荷者数は、前年同月より8戸減の522戸（内、学校・公共団体4戸）でした。また、乳質につきましては、脂肪率が前年を下回り、無脂固形分・細胞数は前年並みに推移しております。

関東生乳販連内の11月用途別販売数量は、加工率が6.04%と前年を1%程上回り、飲用向け販売数量は前年比100.3%と前年を多少上回りました。また、累計の受託乳量は76万5713t（前年比102.2%）、と前年度を上回る実績でした。尚、飲用向け販売量が3ヶ月連続で前年を上回る等の好実績ではありましたが、一昨年の実績と比較すると、依然厳しい状況が続いております。冬期に入り、大きな消費の回復

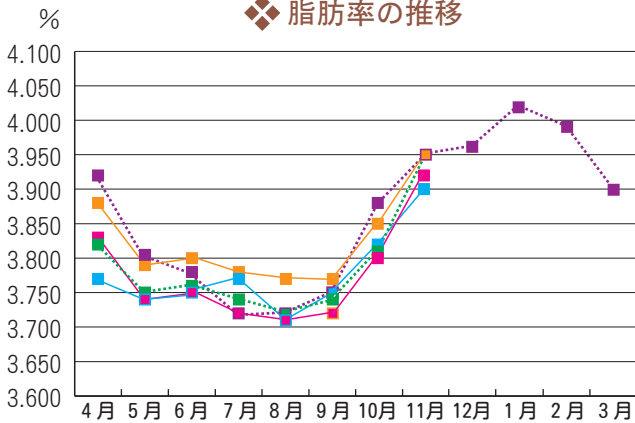
は見られませんが、飲用向けが前年を上回る等、幾分の回復基調も見られる状況です。この動向が一時的なものにならないよう、関係各位が一丸となり消費拡大運動等の取組を続けて行くことが重要となります。

組合の平成24年度の生産・乳質の推移、関東の用途別販売数量は別表のとおりとなっております。

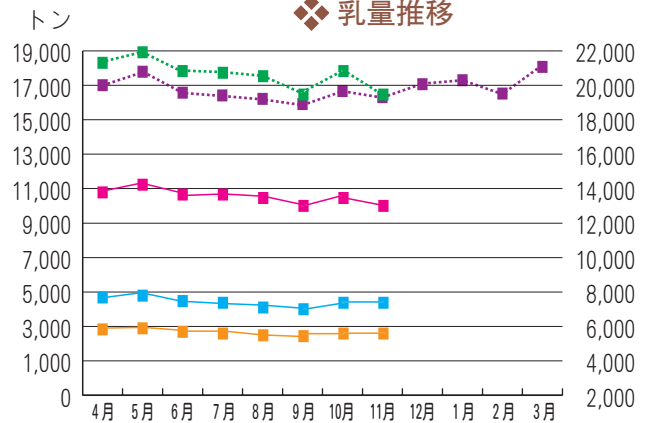
関東生乳販連用途別販売数量 (単位：kg・%)

用途	11月実績	前年実績	前年比	4-11月実績	前年実績	前年比
飲用牛乳向け	70,282,267	70,047,350	100.3	562,667,972	569,453,129	98.8
(うち学校向け)	13,466,655	13,083,703	103.1	86,000,588	84,514,566	101.8
はっ酵乳向け	13,407,521	14,188,052	94.5	116,124,762	116,409,868	99.8
特定乳製品向け(加工)	5,517,579	4,657,827	118.5	67,352,761	44,467,502	151.5
(うち委託加工向け)			-			-
生クリーム向け	2,140,869	2,548,305	84.0	18,986,122	18,146,386	104.6
チーズ向け	63,008	69,761	90.3	582,122	530,997	109.6
総受託乳量	91,411,244	91,511,295	99.9	765,713,739	749,007,882	102.2
加工比率	6.04	5.09	-	8.80	5.94	-

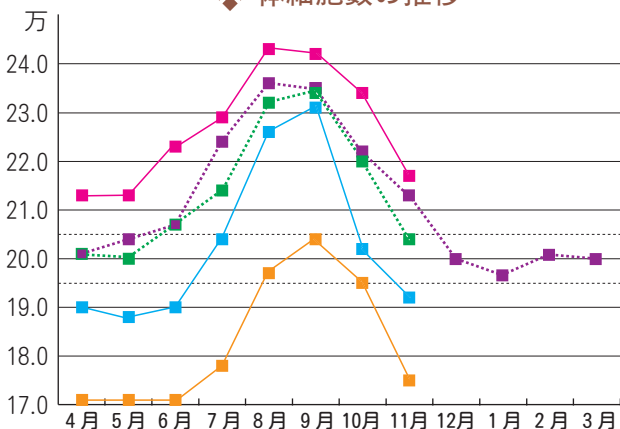
脂肪率の推移



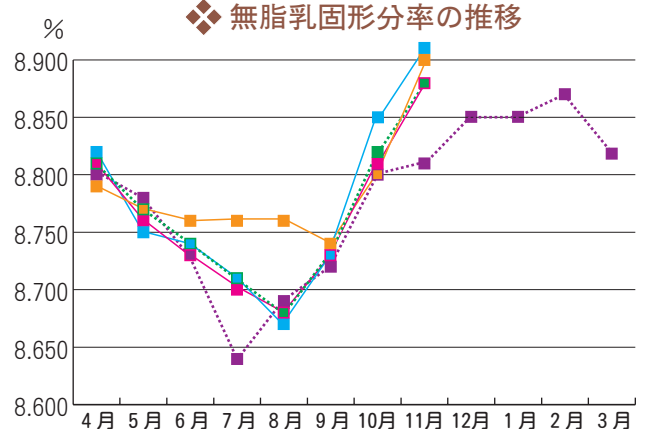
乳量推移



体細胞数の推移



無脂乳固形分率の推移



業務部

女性会全体研修会

12月12日、ホテルエピナール那須において、酪農とちぎ女性会（会長 増山英子）の全体研修会が開催されました。当日は想定外の大雪になり、交通手段等心配をしましたが、女性会会員等114名の出席を得て無事開催することができました。

開会に先立ち坂主副組合長より酪農情勢、更には、今年度新たな取り組みであります、「酪農とちぎ担い手婚活支援事業」について、女性会会員に協力を求める挨拶をいただきました。

講演会は、「ドンブリ勘定から脱却するための酪農経営」と題し、農山村地域経済研究所所長の楠本雅弘氏に講演していただきました。



楠本雅弘氏

講演内容は、経営部門と家計部門（生活費）が分離されていなくて、本来は経営の維持・発展のために経営内

部に蓄積され、経営のために活用されるべき資金が生活費に流用されている経営を「ドンブリ勘定」と表現します。では、「ドンブリ勘定の落とし穴から脱却するには？」、それはきわめて簡単なことで、「ドンブリ勘定」に決別するためには「経営から家計への資金を移すルール」を決めて、それを家族全員で守れば良い。家族協定を結び、生活費、家族一人一人の給料等ルールを決めて経営を良くしていけば、後継者さらに酪農家に嫁ぎたいと考える女性が増えるのではないかと述べられました。

また、先生が全国を講演・指導する中で、農業の中では酪農が一番魅力があると言う女性が多いと力強い情報もいただきました。

講演会終了後は、会場を移し楠本先生を交え、昼食を取りながら懇親会を開催いたしました。女性会会員同士

和気あいあいと会話を楽しみ、有意義な時間を過ごすことができました。



理事会だより

11月度理事会（11月30日）

報告事項

- (一) 組合員加入について
- (二) 業務経過報告について
- (三) 組合資金貸付について
- (四) 組合プール乳価について
- (五) 平成24年度上半期定期監査報告について
- (六) 関東生乳販連情報について

協議事項

- (一) 10月度事業実績について
- (二) 乳牛を担保とした融資制度に関する対応について
- (三) 年末手当の支給について

12月度理事会（12月27日）

報告事項

- (一) 業務経過報告について
- (二) 組合資金貸付について
- (三) 組合プール乳価について
- (四) 年末手当の支給について
- (五) 東京電力原発事故農畜産物損害賠償について
- (六) 関東生乳販連情報について

協議事項

- (一) 11月度事業実績について
- (二) 平成25年度配合飼料・粗飼料及びTMR飼料供給量別利用奨励措置について
- (三) 平成24年度組合購買利用推進女性研修会の実施について
- (四) 平成24年度配合飼料等特別奨励金の支払いについて
- (五) 飼料イネ等の割賦回数について

お知らせ

職員人事

退職（12月31日付）

那須高原支所業務推進課係長 室井 里子

平成24年度組合購買利用推進女性研修会の開催について

日時 平成25年2月22日（金）～23日（土）

研修会場 茨城県東茨城郡大洗町

「大洗ホテル」
多数の参加お待ちしております。

平成26年4月新規採用職員募集

採用予定者 平成26年3月末大学・短大の卒業見込者及び既卒者 若干名
願書受付期間 平成25年4月末日まで
採用試験日時 平成25年5月（予定）

詳細については、当組合ホームページにてご確認ください。
なお、組合の概要、施設見学を兼ねて説明会を開催します。

組合説明会

平成25年2月22日（金）

説明会会場

酪農とちぎ 那須高原支所

説明会申込受付期間

平成25年2月18日まで

お問い合わせ先

028-6660-2211

総務部まで

